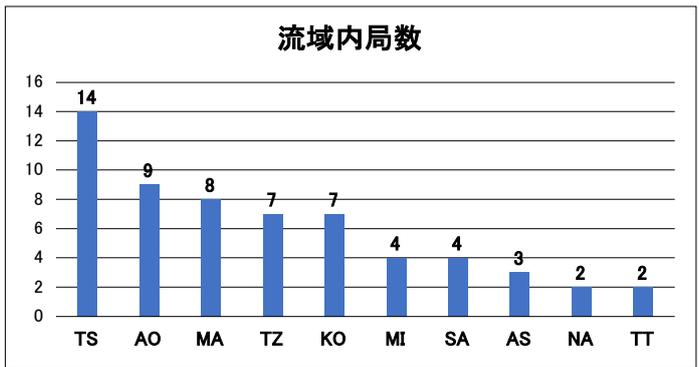


2018.11.4開催 第一回『鶴見川コンテスト』 ご報告・分析

1. 参加内訳

運用マルチ	N r	ログ局数	比率
横浜市鶴見区	TS	14	23.3%
横浜市青葉区	AO	9	15.0%
東京都町田市	MA	8	13.3%
横浜市都筑区	TZ	7	11.7%
横浜市港北区	KO	7	11.7%
横浜市緑区	MI	4	6.7%
川崎市幸区	SA	4	6.7%
川崎市麻生区	AS	3	5.0%
川崎市中原区	NA	2	3.3%
川崎市高津区	TT	2	3.3%
流域内 計		60	



領域	OS	RS	比率
流域外	86		58.9%
流域内		60	41.1%
提出総計		146	



1回目ということで主催者としてはどれくらい参加があるものか期待と不安があったが、結果多くの局の参加が得られた。ログ提出局数は146、しかしながら3QSO以上の交信数のあるコールサインは提出ログ分析によれば266局あり、実質的には多くの局に「電波を出して」頂けた結果となり「万が一の際に自分の電波がどの辺まで届くか？」という開催主旨に沿った結果が得られた。開催日(曜日)の設定は程よく受け入れられたものと思われる催事等での運用にあわせ交信実演を兼ねた局も見受けられた流域外からの参加(提出)も思いのほか多かったが流域内においては川崎北部の参加局が少なく今後のアピールに努めたい

2. モード別QSO数

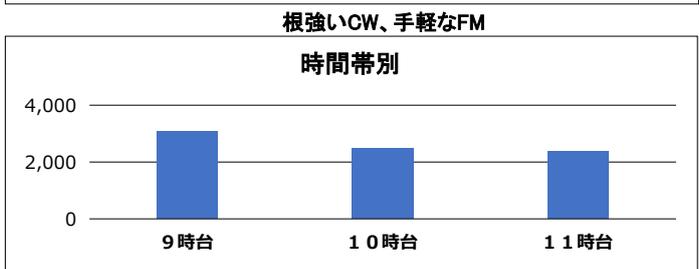
モード別	QSO数	構成比	モード別のQSOについては圧倒的にFMが多かったものの倍得点が功奏してかCWも3割を超えた
FM	5,344	67.5%	
CW	2,422	30.6%	
SSB	153	1.9%	
総計	7,919		



また、コメントによれば「初めてCWに出た」「初めてPhoneに出た」という方も居られOM, YM問わず苦手克服? 引っ張り出しに成功、SSBは今後の活性化(某社の話題の新機種発売?)に期待?

3. 時間帯別QSO数

時間帯	QSO数	時間帯別にみてもスタートからエンドまで密度が高く賑わいを見せた。参加者コメントでも「モノバンドで3時間ぐらいが逆に逃げ場がないので面白い」との言もあった
9時台	3,073	
10時台	2,479	
11時台	2,367	
総計	7,919	



参考

コンテスト参加局数		
ユニークコール数 (3QSO以上)	266局	ログ提出率
ログ提出局数	146局	54.9%

ログ提出方法	提出数	構成比
電子メール	137局	93.8%
郵送	9局	6.2%

電子ログでの提出がほとんどであったがマルチ設定(MD)ファイルに苦勞され断念された方、なんとかクリアされた方様々おられ今後の課題として、電子化を進めつつ、いかに敷居を下げ参加を増やしログ提出局を増やすかが課題と感じられた

4. 入賞者

順位	コールサイン	お名前	種目	運用地マルチ	確定点
1	JF6LIU/1	富樫 栄	RS	NA	2,640
2	JM1LRQ	荒井 伸之	RS	TZ	2,574
3	JR1BQJ/1	山田 実	RS	MA	2,343

QSO内訳 (提出ログに基づく)				
局数	FM	CW	SSB	
182	123	59	0	
177	119	58	0	
171	129	42	0	



順位	コールサイン	お名前	種目	運用地マルチ	確定点
1	JK1WSH/1	鶴留 武彦	OS	X (小田原)	2,431
2	JP1LRT	津久浦 慶治	OS	X (杉並)	2,310
3	JQ11BI	小林 雅彦	OS	X (目黒)	2,090

QSO内訳 (提出ログに基づく)				
局数	FM	CW	SSB	
172	122	50	0	
155	96	55	4	
150	110	40	0	

入賞者においてはほぼCWで50局前後と交信、交信局数はおおむね200局弱が流域内外問わず入賞ラインだった? 流域内で惜しくも入賞は逃したがハンディ+モバイルホイップで150局超えのBest10圏内局もあり次回以降、種目検討に嬉しい悲鳴!